

研 究

全国の通信制高等学校養護教諭を対象にした フォーラムの意義と今後のあり方

増田 明美¹⁾, 塚本 康子²⁾, 林 三千恵³⁾

〔論文要旨〕

通信制高校に通う生徒には、不登校経験のある生徒や精神的な問題をもつ生徒など健康に問題がある生徒が多く、その対応に苦慮している。そこで、通信制生徒の健康支援方法を探ることをねらいとして、通信制高校の養護教諭を対象にフォーラムを開催した。本研究では、フォーラム開催の有効性を質問紙調査と会議録から検討し、フォーラムの意義と今後のあり方を探ることを目的とした。本フォーラムの情報交換が今後取り組みたい課題の明確化、実践への意欲につながるなどフォーラムの意義を確認した。フォーラムのあり方としては、参加者の実践意欲を継続するフォローとより多くの通信制の養護教諭が利用できるネットワーク作りの必要性が示唆された。

Key words : 通信制高等学校養護教諭, 通信制保健室, 通信制高校生徒, フォーラム

I. 緒 言

昭和22年3月に制定された教育基本法の第3条、教育の機会均等が明示され^{1,2)}、学校教育法の第45条を受けて昭和22年10月文部省令として「中等学校通信教育規定」が交付された²⁾。昭和23年3月「新制高等学校通信制」が発足した²⁾。当初は勤労青年が多かったが、現代では、心身に健康問題を抱える生徒や不登校の生徒の進路先として通信制高等学校を選ぶ人が増えてきた³⁾。そこで筆者らは、平成18年、全国にある通信制高等学校100校の保健室担当者を対象に質問紙調査を実施し、通信制保健室の実態と課題を明らかにした⁴⁾。その結果、通信制高等学校生徒には、不登校経験のある生徒や精神疾患や精神的な問題をもつ生徒、重症な疾患をもつ生徒など健康に問題がある生徒が多いにもかかわらず、保健室体制や通信制生徒への健康

支援方法が十分でないことが明らかになった。他にも、通信制の養護教諭はそれぞれ離れた地域にあり、支援方法を共有、検討する場がないという問題があり、通信制養護教諭間ネットワークに対する養護教諭からの需要が高いことが明らかになった⁵⁾。養護教諭の情報交換の場を設けるフォーラムを開催することは、現状に合った支援方法を探ることに繋がるとともに、生徒への支援環境改善に向けて養護教諭の意識を高める効果があり、意義は大きいと考えた。

そこで、平成21年に日本で初めて、第1回の通信制保健室フォーラムを開催し、通信制高等学校保健室の実態と課題を共有化した。それを受けて平成22年に第2回目のフォーラムを実施した。第2回目は、通信制高等学校保健室における健康支援プログラム作成のための指針⁵⁾を基に現場に即した健康支援方法を探ることをねらいとした。

Significance and Future Directions of the Forum for Correspondence High School Yogo Teachers in the Whole Country

Akemi MASUDA, Yasuko TSUKAMOTO, Michie HAYASHI

1) 静岡県立大学短期大学部看護学科 (教育職 / 研究職 / 助産師 / 養護教諭)

2) 新潟医療福祉大学 (教育職 / 研究職 / 助産師)

3) 千葉県立犢橋高等学校 (養護教諭)

別刷請求先: 増田明美 静岡県立大学短期大学部看護学科 〒422-8021 静岡県静岡市駿河区小鹿2-2-1

Tel/Fax : 054-202-2661

[2441]

受付 12. 6. 1

採用 13. 3. 17

本研究では、第2回通信制保健室フォーラムのプログラムの内容と参加者の意識調査や会議録から有効性を検討し、フォーラムの意義と今後のあり方を探ることを目的とした。

II. 用語の解説

1. フォーラム

共通の話題について情報を交換し合う会合。

2. 通信制高等学校保健室における健康支援プログラム作成のための指針⁵⁾

1) 生徒の健康実態の把握とその活用対策, 2) 健康診断の受診率向上のための対策, 3) 危機管理体制の整備, 4) 通信制保健室体制の改善, 5) 社会資源を取り入れた他職種との連携, 6) 通信制生徒の健康意識を高める自己管理への健康教育。

III. 研究方法

1. 対象者

全国にある通信制高等学校126校に対し、フォーラム参加の趣旨と参加依頼書、リーフレットを学校長宛に郵送し、参加希望を募った。当日、研究協力の同意が得られた養護教諭9人を対象とした。

2. 調査方法および調査項目

1) 調査方法

フォーラム参加者に対し本研究の趣旨、内容を説明し、調査協力を依頼した。同意した養護教諭を対象に、フォーラム終了時にアンケート調査票を配布し、回収箱を設置して回収した。質問紙は無記名、自己記入式回答とし、選択式および自由記述式とした。

フォーラム開催の前に、本研究の趣旨、内容を対象者に説明し、ICレコーダーに録音することの許可を得た。

2) 調査項目

調査内容の主な項目は以下の通りである。

(1) 参加者に対する質問紙調査

対象者の属性、効果を問う独自に作成した「プログラムの内容に関する満足度」、「資料の有効性」、「理想的な通信制高等学校保健室についてブレインストーミング」、「フォーラムに参加して今後活かしていきたいことは何かを意見交換したことについて」の4項目を「大変良かった」、「良かった」、「どちらでもない」、「あ

まり良くなかった」、「全く良くなかった」の5段階で選択してもらった。また、「今後の参加希望については4段階で選択、「他校との情報交換の場になったか」については「はい」、「いいえ」、「どちらでもない」の3つで選択してもらった。さらに「フォーラム参加の理由」、「意義があった内容」、「今後取り組みたい課題」、「今回得た情報を今後どのように活かしていきたいか」、「フォーラムに参加して気づいたこと」、「参加前後で意識に変化があったか」について自由記述で回答を求めた。

(2) 研修会の会議記録

① ブレインストーミングを行い図式化。

② フォーラムに参加して「今後活かしていきたいことは何か」を意見交換した。

3. 調査時期

平成22年6月1日～7月24日。

4. フォーラムの概要

1) フォーラム開催の目的と内容

フォーラムの開催目的は、「通信制高等学校保健室の課題を共有し、通信制高等学校保健室の現場に即した健康支援方法を探り、情報提供の場としたい」とした。

第1回は表1に示すように、通信制高等学校保健室の実態と課題を共有した(表1)。

第2回フォーラムでは、通信制高等学校保健室の健康支援プログラムの指針⁵⁾を基に通信制高等学校保健室の現場に即した健康支援方法を検討する目的で行った。まず、通信制高等学校保健室の健康支援プログラム作成のための6つの指針について筆者の研究調査結果を報告した⁵⁾。それを受けて、通信制高等学校独立校の保健室の取り組みを参加者の中の一人が講師となり、具体的支援を報告した。

以上の報告内容を基に、理想的な通信制保健室についてブレインストーミングを行った。1人6枚のカードを配布し、1枚のカードに理想的な通信制保健室を1つ記入した。2グループに分かれ、それらを類似なものに分類し、図式化し発表した。

フォーラム終了後、研究の同意を得られた参加者に対し、「今回得た情報を今後どのように活かしていきたいか」をテーマにして意見交換した。

表1 プログラムの概要

回	目的/内容
第1回	<p>目的：通信制高等学校保健室の実態と課題を共有する</p> <p>①全国の通信制保健室の課題と支援について調査結果を報告した。参加者の中の1人が実践報告し、課題の共有に繋げた</p> <p>②それぞれの学校の課題や支援方法について情報交換した</p>
第2回	<p>目的：通信制高等学校保健室の健康支援プログラムの指針を基に通信制高等学校保健室の現場に即した健康支援方法を検討する</p> <p>①通信制高等学校保健室の健康支援プログラム作成のための指針について研究調査結果を報告した</p> <p>②通信制独立校保健室の取り組みを参加者の中の1人が報告した</p> <p>③報告内容を基に、理想的な通信制保健室についてブレインストーミングを行った 1枚のカードに理想的な通信制保健室を1つ書く。1人6枚のカードを配布した。それらを5人1組になりカテゴリー別に分類し表題を付け図式化し発表した</p> <p>④フォーラム終了後、研究の同意を得られた参加者に対し、「今回得た情報を今後どのように活かしていきたいか」をテーマにして話し合った</p>

2) 場 所

静岡県立大学短期大学部（筆者の勤務する校内）。

3) フォーラム開催日

平成22年7月24日10時～15時。

5. 分析方法

記述内容・会議録の分析は次のような手順で行った。

- ① 用紙に記載された参加者の記述内容はそのままワープロに入力しデータとした。
- ② 全て一文ずつ分けた。
- ③ 一文ずつのデータをその意味を大事にしながら、類似するものをまとめてカテゴリーにした。
- ④ カテゴリーの内容を表す名前を付けた。
- ⑤ カテゴリー同士で類似するものをまとめて大カテゴリーとし、名前を付けた。

分析は質的研究経験のある研究者2名と参加した養護教諭に確認し、内容の信頼性・妥当性の確保に努めた。

6. 倫理的配慮

研究代表者が所属する大学の倫理委員会で審査を受け承認された。対象者には研究開始時に、目的と意義、

記録の使用、匿名性の確保について口頭および文書をもって説明した。データは許可を得て録音した。研究への不参加や中断があっても何ら不利益は被らないことを保証し、対象者本人が納得したうえで研究参加の同意書にサインをもらった。

IV. 結 果

1. 対象者の属性

表2に職種、職歴年数、通信制保健室経験年数、フォーラム参加回数を示した。

養護教諭歴21年以上は6人(66.7%)であるが、通信制保健室経験年数は3年以下が8人(88.9%)であった。フォーラム参加回数2回目目が3人(33.3%)であった。

2. フォーラムの内容について(表3)

本日のプログラムの内容について、「大変満足であった」が6人(66.7%),「満足であった」が3人(33.3%)で、全員が満足であった。

配布した資料については、「とても役立ちそう」が6人(66.7%),「役立ちそう」が3人(33.3%)で、全員が役立ちそうという答えであった。

理想的な通信制保健室の支援についてのブレインストーミングに関しては「大変良かった」が5人(55.6%),「良かった」が4人(44.4%)であった。全員がブレインストーミングについては良かったという答えであった。

「今後どのように活かしていきたいか」についての意見交換は、「大変良かった」が5人(55.6%),「良かった」が2人(22.2%),「無回答」が2人(22.2%)であった。良かったという人は合わせて77.8%であった。

表2 対象者の属性

		n = 9
項目	内訳	n (%)
職種	養護教諭	9 (100)
職歴年数	1～5年以下	3 (33.3)
	6～10年以下	0 (0)
	11～20年以下	0 (0)
	21年以上	6 (66.7)
通信制保健室経験年数	1年以下	1 (11.1)
	1～2年以下	5 (55.6)
	2～3年以下	2 (22.2)
	6年以上	1 (11.1)
フォーラム参加回数	1回目	6 (66.6)
	2回目	3 (33.3)

表3 フォーラムのプログラム項目に対する評価

評価項目	大変良かった	良かった	どちらでもない	あまり良くなかった	全く良くなかった	無回答
プログラムの内容に関する満足度	6人 (66.7%)	3人 (33.3%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
配布資料の有効性	6人 (66.7%)	3人 (33.3%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
ブレインストーミング	5人 (55.6%)	4人 (44.4%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
「今後活かしていきたいこと」意見交換	5人 (55.6%)	2人 (22.2%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)	2人 (22.2%)

今後の参加希望については、「参加したい」が8人(88.9%),「参加してもよい」が1人(11.1%)であった。

他校との情報交換の場になったかという質問に対しては全員が「はい」という返答であった。

3. フォーラム参加の理由

自由記述内容を「 」, 中カテゴリーは<>で示し, 大カテゴリーは【 】で示した。

【情報交換できる場を求めて】いる人が多く5件であった。その内容は「県内に情報交換できる場がない」、「通信制の保健室で戸惑うことが多かったから」、「相談相手がいなかったため」に参加した。また、【昨年のフォーラムの内容から】が3件、その内容は「昨年来てとても良かったから」、「第1回目の資料を見て参加を決めた」であった。その他【顔を合わせることが連携の第一歩】が1件であった(表4)。

4. 意義があった内容

6人(66.7%)の自由記述が得られた。【通信制独立校の保健室の実践報告】について意義があった記述が4件であった。他には、【通信制保健室の課題が明確化】、【他校の情報】などであった(表4)。

5. 今後取り組みたい課題

7人(77.8%)の記述があり、取り組む課題が明確に記述されていた。【生徒への具体的な支援】が3件、【健康診断】、【健康教育】、【健康情報の把握と活用】がそれぞれ2件、その他【校内の連携】が挙がっていた(表4)。

6. 今回得た情報を今後どのように活かしていきたいか

7人(77.8%)の記述があり、【管理職や他の職員へ情報を伝達し共有したい】が5件あり、「通信制の

職員に伝えたい」、「県教委にも話をして、保健の充実を図りたい」などであった。【資料の活用】、【自分の学校でやっていなかったことを実践したい】がそれぞれ1件であった(表4)。

7. フォーラムに参加して気づいたこと

5人(55.6%)の記述があった。その中でも、【情報を共有することでパワーを得た】が5件であった。「他県の通信制の先生方と情報を共有することで元気をもらえた」、「皆さん、意欲的に取り組んでいる姿に接して刺激になった」などが記述されていた(表4)。

8. 参加前後で意識に変化があったか

6人(66.6%)の記述があり、【前向きに取り組む姿勢】について6件であった。「解決する道筋に気づくことができ、意欲がもてた」、「他校の先生方と情報交換ができ、明日への活力となった」などが記述されていた。

9. その他(感想でも、次回ご要望などご自由に)

7人(77.8%)の記述があり、【フォーラムに関すること】が3件、「是非継続してほしい」などが記述されていた。次に、【勉強になった】が2件、【新任への繋ぎの役目】が1件、「異動になったとしても次の養護教諭にも参加していただきたいと伝えたい」などであった。また、【集うことの大切さ】が1件記されていた(表4)。

10. 理想の保健室についてのブレインストーミング(図)

理想の保健室をイメージ化し、1人6枚のカードに書いた。5人1組になり、持ち寄ったカードで類似するカテゴリーをグルーピングし、表題を付ける作業を行った。

表4 アンケート記述式回答内容

質問項目	大カテゴリー	主な内容
1. 今回のフォーラム参加理由 (8人)	情報交換できる場を求めて (5)	「通信についての悩みが多く、相談相手がいなかったため、参加した」、「県内に情報交換できる場がないので大変ありがたい機会であった」、「4月に非常勤として着任して、戸惑うばかりだったので、参加した」、「保健室での生徒の対応など気になっていたため、今年は4年目になるが、やはり、生徒のためにと思ったので」、「情報収集」
	昨年のフォーラムの内容から (3)	「昨年度も参加したかったのですが、日程が合わずに参加できませんでした」、「1回目の資料を見て是非参加したいと思いました」、「昨年来てとても良かったから」
	顔を合わせることが連携の第一歩 (1)	「顔を合わせることが連携の第一歩と思うので」
2. 意義があった内容について (6人)	通信制独立校の保健室の実践報告 (4)	「通信制独立校の取り組みについて」(3) 「講師から単独でしっかり学校保健を推進されている状況報告を聞かせていただくことができた」
	通信制保健室の課題が明確化 (1)	「通信制保健室が抱えている問題が掴めた」
	他校の情報 (1)	「健康診断や他の学校の特色ある情報を知り得たこと」
3. 今後取り組みたい課題 (7人)	健康診断 (2)	「健康診断の充実」、「健診をしなくてはと思う」
	生徒への具体的な支援 (3)	「具体的支援」、「少しゆっくりと生徒と向き合いたいです」、「発達障害の疑いのある生徒への対応」
	健康教育 (2)	「健康教育の充実」、「健康講話の実施」
	健康情報の把握と活用 (2)	「健康情報の把握と活用」、「生徒の情報等の把握」
	校内の連携 (1)	「職員との連携」
4. 今回得た情報を今後どのように活かしたいか (7人)	管理職や他の職員へ情報を伝達し共有したい (5)	「通信制の職員に伝えたい」、「県教委にも話をし、保健の充実を図りたい」、「職員への広報を通じて通信制の学校保健安全の向上」、「管理職に報告し、どんどん発言していきたいと思います」、「他の通信制保健室が抱える問題、生徒の様子を本校に戻って他の教員と共有したいと思います」、「通信制教頭に報告し、通信の生徒のエリア拡大になればと思う」
	資料の活用 (1)	「いただいた貴重な資料を活用させていただきたい」
	自分の学校でやっていなかったことを実践したい (1)	「自分の学校でやっていなかったことを実践したい」
5. フォーラムに参加して気づいたこと (5人)	情報を共有することでパワーを得た (5)	「他県の通信制の先生方と情報を共有することで元気ももらえた」、「みなさん、意欲的に取り組んでいる姿に接して刺激になった」、「パワーをたくさんもらったようだ」、「同じ悩みをお持ちだとわかりました」、「通信制に勤務した養護教諭しかわからない悩みなどみんな同じことを思っているのだなと思いました」
6. 参加前後で意識に変化はあったか (6人)	前向きに取り組む姿勢 (6)	「解決する道筋に気づくことができて意欲がもてた」、「通信制保健室の可能性を感じました。もっとできることがあると」、「他校の先生方との情報交換ができ、明日への活力となった」、「少しやらなければと思った」、「うかうかと仕事をしていたことがよくわかった」、「今後は生徒そして、職員にアタックしていきたいことができた」
7. その他 (感想でも、次回ご要望などご自由に) (7人)	フォーラムに関すること (3)	「是非継続してほしい」、「このフォーラムを全通研主催 (後援) にすれば出張で出やすくなるのではないのでしょうか」、「昨年より今年が多くて良かったです」
	勉強になった (2)	「とても勉強になりました」、「とても良い内容で良かったです」
	新任への繋ぎの役目 (1)	「もし、異動になったとしても次の養護教諭にも参加していただきたいと伝えたい」
	集うことの大切さ (1)	「先生方のお陰でこうして皆さん集まれたのです。それって、すごいことです」

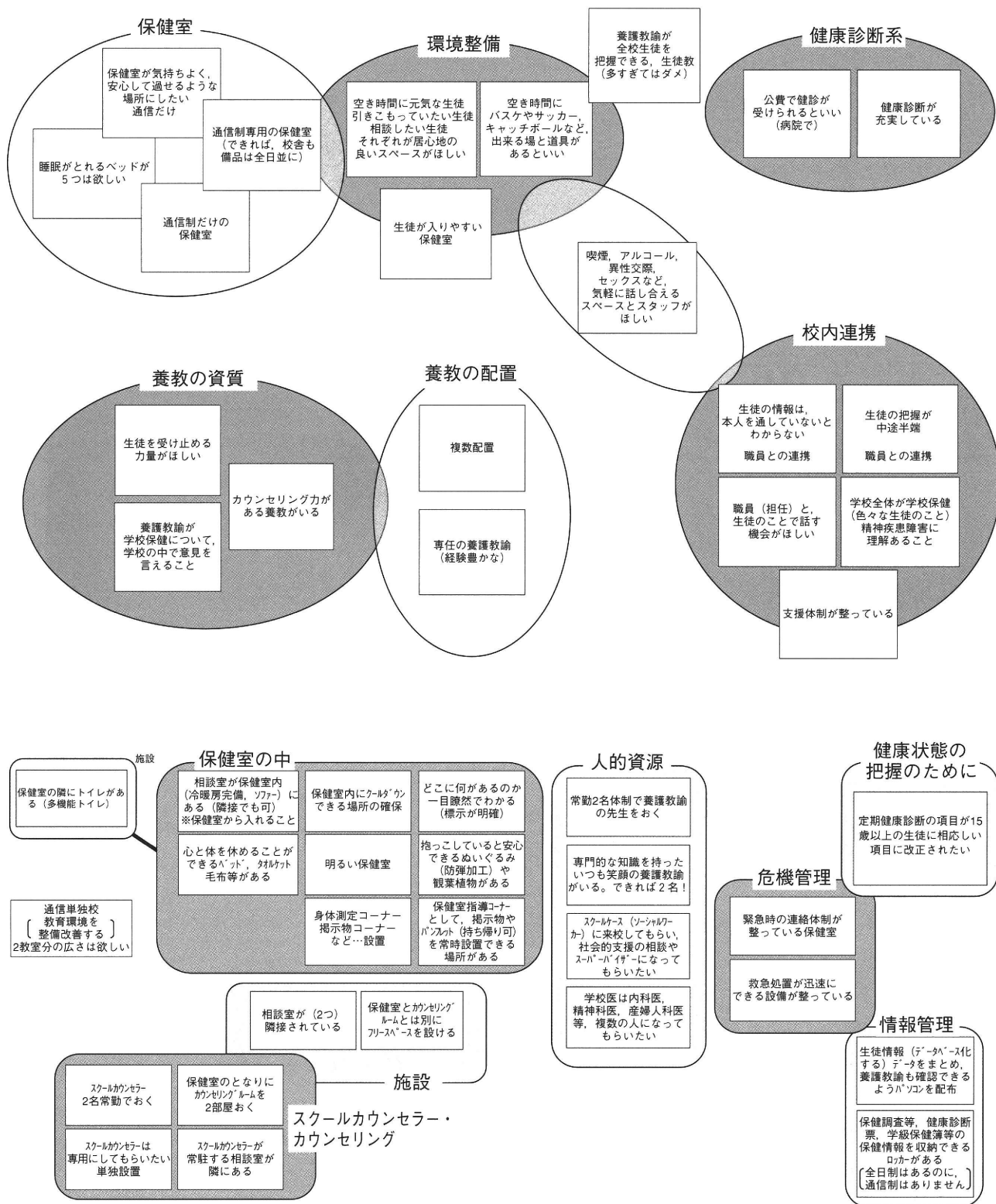


図 理想的な通信制保健室についてブレインストーミング結果

表5 フォーラムに参加して「今後活かしていきたいこと」25件

大カテゴリー	中カテゴリー	主な内容
今後取り組みたい課題(17)	行政や管理職への働きかけ (6)	「管理職の方が認めてくださるということ」、「行政の方にも通信のことをわかっていただくということが、私たちのためだけでなく、生徒のためになることを強く感じた」、「学校に帰りましたら、管理職の方や、行政の方に電話をして変えていけたら良い」、「いろいろな先生方のご意見も聞けたり、いろいろな資料ももらえたので、月曜に管理職にお話にいこう」、「通信制は本校だけなので、他の学校の部会と何かをしようと思うよりも、直接電話したほうが早い」、「保健室の設備の充実」
	生徒への支援 (5)	「生徒の把握」、「生徒数は多いのですが、まずは接していきたいなと思います」、「生徒と寄り添っていききたい」、「特別支援は通信校に対して、身体でも精神でも全ての子の基本であるかたちでモデル事業として、本校でも推進できればと思っています」、「発達支援に対して勉強している」
	教員との連携 (4)	「職員との連携とるには」、「教員と保健室の養護の先生との連携が、非常に重要だと思います」、「教員として今後保健室の先生と教員がどのように連携をしていけばよいかいろいろと考えていきたい」、「私自身は3年間、勤めてきたことを他の人に伝えられたらと感じております」
	健康診断 (2)	「健康診断活かせる」、「健康診断どのように進めていこうか」
実践への意欲 (6)	改善に向けての意識の変化 (5)	「自分ももう少し積極的に動かなければいけないと思った」、「積極的に学校保健の推進一つ一つできることからやっていきたい、何とかやっていきたいなと思いました」、「自分が改善できるところは改善していきたい」、「コツコツ、一歩ずつスムーズに流れていく方向にもっていききたい」、「自分がやってきたことが歴史になるなと思うと、できるところまでやっていきたい」
	養護教諭の積極的な姿勢に感動 (1)	「実践報告では養護教諭の積極的な姿勢に感動した」
情報交換 (2)	情報交換 (1)	「この情報交換がものすごく参考になる」
	共通の課題 (1)	「共通の課題なので話を聞いたことをいろいろ活かせる」

それらを黒板に掲示し、代表者が発表した。その内容は「保健室の充実」、「養護教諭の複数配置」、「校内の連携」、「スクールカウンセラー」、「健康診断」、「危機管理」、「養護教諭の資質」、「学校医には内科医・精神科医・産婦人科医」などが挙げられた(図)。

11. フォーラムに参加して「今後活かしていきたいことは何か」

キーワード25件の内容が抽出された。類似したキーワードをさらに抽象化して分類した結果、次の3つの大カテゴリーが抽出された。【今後取り組みたい課題】、【実践への意欲】、【情報交換】が挙げられた(表5)。

1) 今後取り組みたい課題

【今後取り組みたい課題】には、4つの中カテゴリーが含まれた。最も多かったのが「行政や管理職への働きかけ」であった。その内容は、「行政の方にも通信のことをわかっていただくということが、私たちのた

めだけでなく、生徒のためになることを強く感じた」、「管理職の方が認めてくださるということ」など6件であった。＜生徒への支援＞では、「生徒と寄り添っていききたい」、「特別支援について推進できれば」、「発達支援に対して勉強している」など5件であった。＜教員との連携＞では、「教員と保健室の養護教諭との連携が、非常に重要」など3件であった。＜健康診断＞では、「健康診断活かせる」、「健康診断どのように進めていこうか」など2件であった。

2) 実践への意欲

【実践への意欲】には、2つの中カテゴリーが含まれた。最も多かったのが「改善に向けての意識の変化」であった。その内容は、「自分ももう少し積極的に動かなければいけないと思った」、「積極的に学校保健の推進一つ一つできることからやっていきたい」、「自分が改善できるところは改善していきたい」など5件であった。＜養護教諭の積極的な姿勢に感動＞で

は「実践報告では養護教諭の積極的な姿勢に感動した」の1件であった。

3) 情報交換

【情報交換】は、「共通の課題なので話を聞いたことをいろいろ活かせる」、「この情報交換がものすごく参考になる」など2件であった。

V. 考 察

1. フォーラムの有効性

フォーラムの有効性に関しては、質問紙調査の結果は「大変良かった」、「良かった」が100%で、参加者全員の満足度は高かった。配布資料についても高い評価であった。今後のフォーラム参加希望で「参加したい」、「参加してもよい」と100%の人が答えたことから、満足度は高かったと評価した。

今回のフォーラムのプログラムで最も意義深かったのは「通信制独立校の実践報告」である。「解決する道筋に気づくことができ意欲がもてた」、「取り組む姿勢が高まった」という記述にみるように、それぞれが自分はどうすべきかという具体的な思考につながった。このような意識の変化には、講師が自分の取り組みを具体的に示したことで、参加者のやるべきことが明確化し、行動への意欲につながったものと考えられる。

次に、ブレインストーミングを行ったことの有効性について述べていく。全員がブレインストーミングを「大変良かった」、「良かった」と答えた。それぞれの支援方法を出し合い、認め合いながらグルーピングしていくという、課題の共有と相手のアイデアを認めていくプロセスが、自校での改善策を見出していくことにつながったのではないかと考えられる。

総じて、フォーラムのねらいでもあった生徒への支援環境改善に向けて養護教諭の意識を高めること、それぞれが自校で抱える課題を明確にできたことや取り組む姿勢や意欲がもてたことは、フォーラム開催が有効であったことを示す。しかし、4時間という時間では、フォーラムの目的である現場に即した健康支援方法を検討するところまでは達成できなかった。限られた時間内に健康支援を検討するプログラムに工夫が必要であることが示唆される。

2. フォーラムの意義について

フォーラム終了後、今回得た情報を今後どのように

活かしていきたいか話し合った。その内容からフォーラムの意義を探った。

内容分析の結果、3つの意義が導かれた。1つめは、表5に示すように【今後取り組みたい課題】が明確化されたことである。そこでは具体的な課題が示された。まず、管理者に保健室体制の現状を知ってもらうことが必要である。保健室体制は養護教諭1人の力では変えられないことから、自分にできるところから改善していくという現実的な課題を見出していた。その他、「発達障害の生徒」、「生徒と寄り添うこと」などが語られた。また、「教員との連携」の必要性や「健康診断の工夫」、「健康情報の把握と活用」など、課題が明確になり、具体的に実践していこうとする意欲的な言葉で表現されていた。

次に、2つめの意義として【実践への意欲】が挙げられる。これは、1つめの意義と重なるが、フォーラムに参加することで情報を得るだけではなく実践したいという意欲が生じたということである。実践報告を聞いて「自分も、もう少し積極的に動かなければならないと思った」、「自分が改善できるところは改善していきたい」など実践への意識の高まりが述べられた。前述したように、講師が通信制独立校の実践例だけでなく、養護教諭としての姿勢を示してくれたことで、自己の振り返りや自らの専門性について問う機会になり、参加者の意識に変化をもたらした⁶⁾、と考えられる。さらに、参加者一人ひとりが経験豊富で専門職としての意識が高かったことや⁷⁾、通信制保健室の支援方法を何とかしたいという動機付けも大きな要因といえる。

3つめの意義は【情報交換】である。フォーラム参加理由の中には「通信についての悩みが多く、相談相手がいなかったため参加した」、「県内に情報交換できる場がない」などが記述されていた。通信制養護教諭は情報を共有し、課題について話し合う場がない。それは、全日制や定時制の養護教諭とは異なる課題を抱えていることを意味している。通信制養護教諭は課題を共有することができない孤独感の中で、自問自答しながら生徒支援をしなければならない現状にある。フォーラムで顔と顔を合わせることで、同じ課題を共有できたことは心理的安定をもたらし、実践への意欲を喚起したといえる。「情報を共有することでパワーを得た」という言葉からも、今後の課題に取り組む意欲向上へつながったことが窺える。

以上より、通信制高校の抱える保健室環境を考えると、情報を共有できるフォーラムの意義は大きく、課題の明確化、課題への意欲につながっていることが明らかになった。

3. 今後のフォーラムのあり方について

質問紙調査(表4)および会議録(表5)の結果から、参加者が現場で取り組みたい課題として挙げられたのは、①健康診断、②生徒支援、③健康教育、④健康情報の把握と活用、⑤校内の連携の5項目であった。参加者が求める内容と筆者が明らかにした通信制生徒の健康支援プログラムの指針の項目と同様の内容が認められた⁵⁾。今後のフォーラムにおいては、①～⑤をテーマにしたプログラムを企画していくことが、現場に即した情報提供につながることを示唆される。

質問紙調査のその他の項目において、「このフォーラムを全通研主催(後援)にすれば出張で出やすくなるのではないか」という意見があった。公的な機関である全国高等学校通信制教育研究会(全通研)の後援の支持が得られれば、フォーラムの信頼度も高まり、出張費が確保でき参加しやすくなると考える。また、全通研の中に養護教諭の部ができ、養護教諭の日ごろの成果や意見交換が可能になれば、通信制生徒の支援につながる。今後は公的機関につなげる役割も担っていく必要がある。

全日制や定時制の養護教諭の場合は地域でのネットワークがあり、地域の養護教諭からの学び合いや研修する機会がある。しかしながら、通信制の養護教諭はフォーラムに参加したくても遠方にあり、参加することが難しい。しかも、非常勤体制の学校が半数近くあり、旅費の補助が確保されず研修を受ける機会が狭まれている現状がある^{4,5)}。そのことが、フォーラム参加人数に影響している。その現状を踏まえ、今後のフォーラムの継続については、近隣地区での研修会や参加者の旅費を補助できるような所属大学の研究助成金の申請、さらには科学研究費補助金の助成確保にも努めたい。

また、本フォーラムも年1回の開催のみで、参加者の実践意欲の高まりを継続するフォローまで企画されていない。今後のフォーラムのあり方として、通信制高校の養護教諭を対象とした通信制生徒の健康支援のスキル向上に寄与する教育プログラムの開発や支援方法など情報交換ができるネットワーク作りを立ち上げ

ることの必要性が示唆される。

VI. 本研究の限界

本研究はアンケート調査と会議録からの調査であり、その後、実際に活かせたのかどうかの追跡調査をしていない。また、今回のフォーラム参加の対象者が常勤の養護教諭6名、非常勤の養護教諭3名であり、9名の参加者の意見であって、通信制高等学校の保健室状況全体を表すには限界がある。今後はそれらを踏まえ通信制保健室フォーラムの意義や今後のあり方を考察する必要がある。

謝 辞

本研究を行うにあたり、ご参加いただいた参加者の皆様に深く感謝申し上げます。

なお、本研究は科学研究費補助金基盤研究C(課題番号20500610)の助成を受けて実施した。

文 献

- 1) 市川須美子, 浦野東洋一, 小野田正利, 他編集. 教育小六法. 東京: 学陽書房, 2003.
- 2) 全国高等学校通信制教育研究会編. 高等学校通信制教育五十年のあゆみ. 日本放送出版協会, 1998: 8-83.
- 3) 石垣智博. 研修報告書 通信制高校の現状と今後の方向性. 静岡県教育委員会, 2002: 1-22.
- 4) 増田明美, 塚本康子, 三田英二. 全国の通信制高等学校における保健室の実態と課題. 学校保健研究 2010: 52 (1): 52-62.
- 5) 増田明美, 山田好秋, 山村健介. 通信制高等学校保健室における健康支援に関する研究—常勤の養護教諭が配置されている通信制高等学校保健室の課題と健康支援の実態より—. 新潟歯学会雑誌 2010: 40 (1): 40-51.
- 6) 岡本玲子, 中山貴美子, 塩見美抄, 他. 実践をよりよくしたい保健師への研究者の働きかけと生じた変化—6事例へのアクションリサーチを通して—. 日本看護学教育学会誌 2008: 17 (3): 1-12.
- 7) 南川恵子. 養護教諭の自己教育力と現職研修の意義. 日本養護教諭教育学会誌 2010: 13 (1): 13-16.
- 8) 村山洋史, 奈良部晴美, 兒島智子, 他. 地域専門機関とインフォーマル組織間のネットワーク構築促進プログラムの開発. 日本公衆衛生雑誌 2010: 57(10): 900-907.

- 9) 村山洋史, 兒島智子, 戸丸明子, 他. 地域専門機関とインフォーマル組織間のネットワーク構築促進プログラムの評価. 日本公衆衛生雑誌 2010:57 (10): 909-919.
- 10) 田尾雅夫編著. よくわかる組織論. 京都: ミネルヴァ書房, 2010: 147-149.

[Summary]

There are many correspondence high school students with health problems, such as those with experience of school refusal and those with mental problems, and we face difficulties in dealing with such students. Therefore, to explore methods of health support for correspondence school students, a forum was held for correspondence high school Yogo teachers. The purpose of this study was to investigate the effectiveness of holding the forum

based on a questionnaire survey and proceedings of the forum and to explore the significance and future directions of the forum. The significance of the forum was confirmed in that information exchange in this forum led to the clarification of themes to be dealt with in the future and the participants' motivation to practice. As future directions of the forum, it was suggested to be necessary to conduct follow-ups for maintaining the participants' motivation to practice and to create networks available to more correspondence school Yogo teachers.

[Key words]

correspondence high school yogo teachers,
correspondence school health room,
correspondence high school students, forum